



春

身近な自然が暖かい



カントウタンポポ

平成4年度足立区河川生物調査報告書「川の生き物たち」



グラフ版の「川の生きもの」

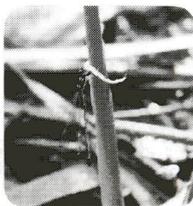
春のそよ風が感じられ、なんとなく心がうきうきする季節になりました。草花が芽を出し、鳥のさえずりも心地よく、自然がこころも楽しい季節です。「川の生き物たち」は、そんな自然や生物を、皆さんに知ってもらい、楽しんでほしい。そして、身近な自然の大切さを、見つめ直すきっかけになればと作りました。区内の河川、特に荒川に棲む、魚や昆虫、鳥や植物などを1年間かけて調査したもので、絶滅寸前といわれるヒメマイトトンボや都会では珍しいキジも確認されました。春の一日、自然ウォッチングに出かけてみませんか。かわいいうち鳥や草花と出会えるだけでなく、新しい発見が皆さんを待っています。

およそ100種の生物を確認

区では、今後の環境対策、続く4年に、度の大規模調査や、まちづくり年がすぎた、春の年をとり、平成3年10月から4年9月までの1年間をひき、荒川、隅田川、中川、毛長川、綾瀬川、区管内の河川の中で、特自然が多く残る荒川を中心に、その調査結果を掲載しています。

絶滅寸前のヒメマイトトンボが荒川で繁殖

ヒメマイトトンボは、環境省指定の絶滅危惧種(Ⅰ)に指定されている大変貴重なトンボです。100年に1回に1回しか発生しない、絶滅の恐れのある種として、都府県でわずか1ヶ所しか確認されておらず、その報告もありません。



ヒメマイトトンボ

ヨシ原は渡りの鳥のやすみ空間

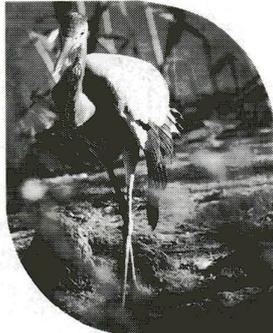
鳥類では、世界的にみても分布が限られている鳥、クロシが初めて観察されました。クロシの越冬地は、本州中部以南の毛長川や谷などです。今回確認されたものは、渡りの中継地として、荒川のヨシ原を利用して、いたものと推測されます。また、昨年10月に荒川で捕獲したオオシロリに

川を活用する

足立流れる一番大きな川、荒川。治水を目的に明治44年から昭和5年まで、19年かけて作られた人工の河川です。治水、水運、農業用水として利用されてきた川も、現在は、区内の貴重なオアシスです。運動場、公園なども整備され、人々の憩い、レクリエーションとして活用されています。また、花火大会や足立まつりなどが開催される、イベントゾーンでも、復元を進めています。

ビオトープ

ビオトープとは、動物の生息・生育空間のことをいいます。池沼、河川、森林、生垣、屋上や壁面の緑化など、オトトープとして解されています。荒川が足立区に自然保全復元区(足立区)と定め、区域を定め、親水整備計画として、自然保全整備に合わせ、ビオトープを設定し、自然保全・復元のネットワーク化を図っています。



ヨシ原のアオサギ

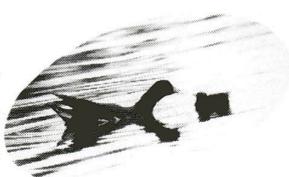
標識を付け、放したところ、同じ鳥が愛知県渥美半島で確認されました。この結果は、荒川のヨシ原が多くの渡りの鳥の



シロツメクサとベニシジミ

自然を守り育てるのは私たち

最近、板橋区で起きた、矢張り事件。マスコミでも大きく取り上げられ、人々の生命の憂、自然・環境保護の大切さを強く印象づけました。また、人間のお命を奪っているのは、残虐な人間です。



ウォッチングへ出かけよう

「川の生き物たち」は、調査員のデータや分析を載せた報告書「川の生き物たち」と、オールカラーのグラフ版「川の生きもの」の編からなっています。グラフ版は、「生きもの」の「川の生き物たち」を手に、身近な自然や動物や植物を探しに行きませんか。問い合わせ先 環境課調査係 ☎(3888)55075

